

目標

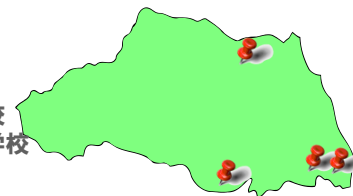
明確な論証の構造をもつ議論(言語活動)を通じて、思考力・判断力・表現力を効果的に高める。こうした議論に対して効率と品質を高める授業マネジメントの方法論から授業力を高めるモデル授業を考案する。

Concept

- 各教科等において、情報活用能力の育成と関連させた学習指導の在り方を検討する。
- ICT機器および情報ネットワークを利用するassemblogueは、学習者の思考のためのツールとして成り得るか検証する。
- assemblogueを協働的な学びのツールとして成り得るか検証する。

協力校

- 川口市立里小学校
- 八潮市立八幡中学校
- 県立芸術総合高等学校



仮説

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着とassemblogueを活用して行う言語活動を通じて、情報活用能力が確実に身に付くと考える。

- ・ 明確な論証の構造を持つ議論(言語活動)を通じて、思考力・判断力・表現力を効果的に高めることができる。

背景

明確な論証の構造をもつ議論は、表現の冗長性を抑制し議論全体がわかりやすくなる。議論のプロセスや結果から、教師(指導者)は、子どもたちの既知の知識、その関係はどう捉えているかを知ることができると考えられる。子どもたち(学習者)は、どれだけ自らの理解が深まったか確認でき(自己評価)、他の子どもたち(学習者)と交流することで、他者の理解の異質性を知り(相互評価)、自らの理解を捉え直すフィードバックがかかると考えられる。

研究

この研究は、平成20年度より開始した。独立行政法人産業技術総合研究所の橋田浩一先生の支援を受けながら研究を進めているものである。調査研究に使用しているassemblogue及びセンタツクエティタは、同研究所が開発したものである。

基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着とそれを活用して行う言語活動を通じて、情報活用能力が確実に身に付くと考える。一斉授業に加えて、子どもたちが一人一台の情報端末を活用した、個に応じた学びや協働的な学びを、以下の思考整理型、知識整理型の授業で研究を進めるものである。

思考整理型概略

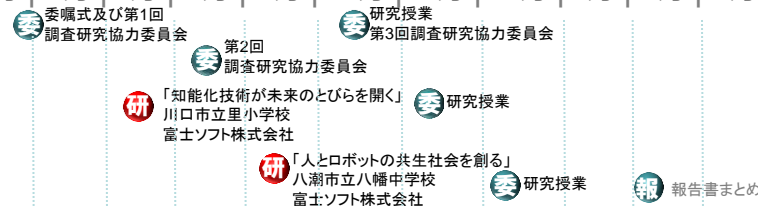
思考整理型では、意見や感想の交流、討論等のそれぞれの表現活動においてassemblogueを活用する。明確な論証の構造にあてはめ、論理的に表現することは、「思考力・判断力・表現力」の構造化である。従来の表現活動では、「活動あって学び・評価なし」に陥りやすかった。例えば、assemblogueを教育ディベートに利用した場合では、児童生徒は「自分の考え」をもち、それを論理的に発信する。過去の発言が見えることから、発信する場合は発言の一貫性が求められる。教師は、討論の全体像を捉えられることから、学級全体の到達目標(評価基準)との差異が把握しやすい。

知識整理型概略

既存している知識を文章で表現する方法では、語彙力や表現力などに規定されてしまう。しかしassemblogueを利用すれば、いくつかのキーワードの相互の位置取りを考え、それを線でつなぎ、その関係を説明を付していくことで子ども自身も自らの理解を捉えやすい。単元終了時などに活用することで、教師にとっては実践上の反省を行うために、子どもたちにとってはどれだけ学習のめあてを実現できたかが確認できる。そして、成果物を元に交流すれば、他者の理解の過程を全体的に一望でき、自らの理解を捉えなおす相互評価も行われる。

Schedule

4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月



assemblogue画面

assemblogueとはなんですか？

assemblogue(アセンブローグ)とは、SNS などからコンテンツを集めて議論を作り、その構造を可視化するサービスです。オンラインの議論に関する研究の一環として開発しています。現在は第1ステップとして assemblogue 上での議論の構造を可視化するサービスを公開しています。AISTホームページより



SNSと連携した議論支援サービス
オープンな議論、クローズドな議論も可能

